

# 平成30年度事業計画書

平成30年4月1日より平成31年3月31日まで

公益財団法人 セディア財団

## はじめに

当財団は、平成25年4月1日に設立し、同年8月に公益財団法人の新規認定を受け、平成30年度は設立6年目を迎えます。当財団は、自然体験活動やスポーツ教室の開催、小学生を対象としたかべ新聞コンテスト、さらに平成30年度から高校生を対象にした明日の農業レポートコンテストを新規事業に加え、国民の環境意識の増進と健全で豊かな人間性の構築に寄与すべく様々な事業を実施してまいります。

## 財団の事業目的

この財団法人は、自然環境の源である水の大切さから環境保護を学び、恵まれた大自然の中での自然体験、野外活動、農業体験及びスポーツを通じて健康で活力に満ちた心身とともに豊かな人間を育てることで、時代を担う青少年の育成、高齢者の生涯現役の持続、障害者の自立支援を図り、健康で豊かな社会の構築に寄与することを目的とします。さらに小学生を対象とした第4回「水に関するかべ新聞コンテスト」を実施し、水の大切さと衛生的な生活環境に不可欠な水道の仕組みを学ぶことによりさらなる青少年の健全な育成と公衆衛生の知識向上を図ります。また、平成30年度から新規事業として、全国の農業高校または農業系教科・科目を学ぶ高校生を対象に「明日の農業」を考えると題したレポートコンテストを実施し、農業を通して、環境保護と社会発展の調和、「生命・自然・もの」を大切する心を醸成するとともに青少年の健全な育成を促進致します。

## 事業

### 1. 自然体験、野外活動及び農業体験事業(公1)

子供や障害者、高齢者に向けて、自然体験、野外活動、農業体験を実施し、ガイド・インタープリター等の専門家や地域の環境保護活動の担い手の方々の指導のもと、実際に体験しながら環境の学習を行い、自然保護、環境意識の向上、郷

土愛の醸成等を図り、青少年の健全な育成及び高齢者の生きがい促進、障害者の自立支援を図るため、以下の事業を実施します。

#### (1) 子ども対象にした自然体験活動事業

平成28年度より子どもを対象にした自然体験活動事業を「アウトドアチャレンジ野外力検定」と称し、自然体験活動の普及促進を図ってまいりました。平成30年度は、アウトドアチャレンジ野外力検定の更なる普及活動と「検定会」実施を行ってまいります。

なお、「野外力検定」と称しますが、厳密な検定では無く、子ども達が楽しく自然体験に取り組むためのネーミングで、「火をおこす」「ロープを結ぶ」「テントを張る」「地図を見る」「コンパスを見る」「丸太を切る」「植物や動物を観察する」「星空を見る」など野外活動のメニューを子どもの年代に応じた水準を決めて体験してもらいます。この野外遊びの体験会を「野外力検定会」と称して、実施していきます。また、実施にあたり、教材・資材の拡充とともに子ども達への体験指導を行う指導員の育成のため、指導用のガイドブック制作や研修会を行います。

- ① 指導員養成のため研修会 年8回～10回
  - ・野外力検定の制度の普及促進の説明も兼ね、全国で実施。
  - ・当財団の子どもを対象にした自然体験活動「アウトドアチャレンジ野外力検定会」のメニュー内容を理解してもらい、安全に子ども達の体験を指導できるようにする。
  - ・対象者 全国の自然体験活動を行っているNPO法人や団体、ガイドやインタープリターなどの個人で自然体験活動を実施している方。
- ② 指導員用ガイドブックの制作
  - ・アウトドアチャレンジ野外力検定のメニューと安全に体験会(検定会)を実施できるようガイドブックを制作する。
- ③ 自然体験会(野外力検定会)の実施
  - ・全国各地 15会場～20会場を目標に実施
  - ・開催場所 各地の青少年自然の家、運動公園、スポーツセンター

④ 各種教材の作成、資材の購入

・「アウトドアチャレンジ 野外力検定会」の横断幕やのぼり旗、指導員が着用するビブス(指導員と認識できるようにする)の購入、子ども達が自然活動メニューを体験した時に渡す「検定合格カード」の印刷作成やたくさん体験した子どもを表彰する賞状も作成する。

(2) 子どもの田植え体験と農業の担い手である高齢者の交流促進

実施日 : 平成30年6月10日(日)予定

内 容 : 都市部に住む子供とその家族を対象に、長野県の農業従事者(高齢者)の指導のもと田植え体験を実施いたします。地元高齢者と都市部の子供達との交流を通して、子供達の自然環境教育や食育を行い、併せて地元高齢者の生涯現役ための環境整備を支援するとともに新たなコミュニティーの造成を図ることを目的とします。

これ以降の事業予定としては以下の通りである。

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| ・障がい者とその家族の自然散策体験 | 平成30年9月初旬予定  |
| ・都会の子どもによる稲刈り収穫体験 | 平成30年10月初旬予定 |

2. スポーツ教室及び競技会の開催(公2)

子どもや障害者を対象にスキーを主としたスポーツ教室を実施し、併せて技能向上を主眼とした競技会を開催することで、心身ともに健全な豊かな人間性の滋養を図ります。

・ブラインドスキー教室・大会の開催

実施日 : 平成31年1月下旬

内 容 : 長野県アサマ2000スキー場にて、視覚障害者のスキー支援のためのブラインドスキー教室を開催し、その普及を図る。また、教室参加者によるブラインドスキー大会を開催し、視覚障害者スキーヤーの意欲醸成を図る。

### 3. 「水」に関するかべ新聞コンテスト(公3)

小学生が学校や家庭で制作した「水」に関するかべ新聞を募集し、その作品を評価、優秀な作品を制作した小学生または学校を表彰することによって、「水」に関する環境教育を奨励し児童、青少年の健全な育成と「水道の仕組み」を学ぶことにより公衆衛生の知識向上を図ります。

本かべ新聞コンテストは、平成27年度に公益事業として認可を受け、平成30年度は第4回目のコンテスト事業となります。平成29年度の第3回コンテストでは、全国の小学生から5,022点と多くの作品が寄せられ、公益事業としてのかべ新聞コンテストの社会的認知度は高まってきたと思われます。平成30年度も更に多くの小学校で取り組んで頂けますよう募集告知の方法を工夫し、また、運営上の課題等も洗い出しながら充実したかべ新聞コンテストになるよう取り組みしていきます。

#### (1) 事業の内容

- ① 事業名称 しらべてみよう、たいせつな水のこと  
第4回全国小学生「くらしと水」かべ新聞コンテスト
- ② 主催 公益財団法人 セディア財団
- ③ 後援
  - ・全国市町村教育委員会連合会
  - ・全国連合小学校長会
  - ・全国小学校社会科研究協議会
  - ・全国小学校理科学研究協議会
  - ・日本初等理科教育研究会
  - ・全国小学校理科生活科・総合的な学習教育研究協議会
  - ・全国新聞教育研究協議会
  - ・全国小中学校環境教育研究会
- ④ 対象 全国の小学生  
個人またはグループでの応募も可
- ⑤ 募集内容 わたしたちのくらしに欠かすことのできない、たいせつな「水」に関する学習内容をまとめた「かべ新聞」や「学習新聞」

⑥ テーマ わたしたちのくらしと水

テーマ例

- ・学校や家で使う水はどこからくるのかな
- ・使ったあとの水はどうなるの
- ・井戸ってなに？むかしのくらしと水
- ・わたしたちの地域の水じまん
- ・水の不思議を探してみよう
- ・家族でチャレンジ、節水とエコ
- ・世界の国の水事情
- ・植物や作物などを上手に育てる水のやり方

⑦ 募集部門 2部門

低学年の部 小学1年生－3年生

高学年の部 小学4年生－6年生

⑧ 募集方法 ・6月上旬 全国の小学校へポスター、チラシを送付

- ・6月中旬 日本経済新聞で告知広告を掲出

⑨ 募集締め切り 平成30年10月中旬予定

- ⑩ 審査委員会
- ・一次審査 小学校現任教諭を中心に依頼(18名～20名)  
ミネート作品を選出する
  - ・最終審査 一次審査のミネート作品の中から一次審査の  
審査委員長、有識者(大学教授等複数人)  
財団理事長で最終審査を行う。

[最終審査委員予定者]

- ・角屋重樹 日本体育大学児童スポーツ教育学部教授
- ・北 俊夫 国士舘大学体育学部教授
- ・全国小学校社会科研究協議会 会長
- ・全国小学校理科科研究協議会 会長
- ・全国新聞教育研究協議会 会長
- ・主催者代表 公益財団法人セディア財団 理事長

⑪ 発表 日本経済新聞で審査結果の発表広告を掲出

- ⑫ 賞と賞品
- ◇最優秀賞 セディア財団賞 全作品より1作品  
賞状、記念たて、副賞(図書カード5万円分)
  - ◇優秀賞 両部門から計4作品  
賞状、記念たて、副賞(図書カード2万円分)
  - ◇準優秀賞 両部門から計10作品  
賞状、副賞(図書カード5千円分)
  - ◇佳作 両部門から計20作品  
賞状、副賞(図書カード1千円分)
  - ◇努力賞 両部門から65作品  
賞状、副賞(図書カード500円分)
- 上記入賞作品数合計は100作品
- 
- ◇学校奨励賞 優秀な作品を多数応募した小学校2校を表彰  
賞状、記念たて、副賞(図書カード5万円分)
  - ◇参加賞 応募者全員に記念品(文具)

(2) 事業スケジュール

(3)

- 5月
  - ・かべ新聞作品募集要項の決定
  - ・募集用ポスター、チラシの決定
  - ・応募の手引の制作
  - ・募集用新聞広告の決定
  - ・審査委員体制の決定
  
- 6月
  - ・募集用新聞広告の掲載
  - ・全国の小学校への作品募集の案内、募集要項、ポスター、チラシ、応募の手引の発送(約5000校)
  
- 10月
  - ・10月中旬 作品締切
  
- 11月
  - ・作品 一次審査実施
  
- 12月
  - ・最終審査委員会実施
  - ・入賞作品決定、入賞の通知、入賞作品新聞発表
  
- 1月
  - ・入賞作品対象学校へ賞状、記念タテ、賞品図書カード送付
  - ・入賞作品集の制作

#### 4. 明日の農業レポートコンテスト(公4)

※平成30年度から新規の公益事業として実施する予定です。

##### (1) 事業の趣旨

農林水産省の平成29(2017)年の耕地及び作付面積統計によれば、全国の農地面積は、444万4千haとなっており宅地等への転用や耕作放棄等により前年と比較し27千ha減少しています。10年前の平成19年の465万haから比較すると21万haも減少しました。また、同省の農業労働力に関する統計の平成29年全国農業就業人口調査では181.6万人と平成22年調査の260万人から約80万人も減少し、農業従事者の高齢化も大きな問題となっています。新規就農者の促進、若手従事者の育成が日本農業の大きな課題であります。

一方、教育の分野では、農業高校が後継者育成や学科関連の技術者の育成を中心とし、いわゆる「職業高校」として農業後継者あるいは新規就農者の即戦力として期待されていました。しかし、我が国の高度な経済発展の中で時代に対応すべく、農業機械、農業土木、農業経済、食品製造、食品化学、微生物利用、バイオテクノロジーといった新たな教科、科目を教育課程に導入し、「職業高校」→「実業高校」→「専門高校」へと教育内容を変えて今日に至っています。さらに、農業高校への入学者は、全国的な農業従事者の減少や産業構造の変化から農家出身者は減少の一途をたどり、生徒が多様化するとともに、その進路も多様化してきています。このような流れの中で農業高校の方向性は、後継者及び関連技術者育成を中心とした「農業を教える」教育から、専門性と特性を生かした「農業で教える」豊かな人間作り教育へと変わりつつあります。平成22年10月文部科学省発行の「高等学校学習指導要領解説 農業編」においても改善の基本方針として、「将来のスペシャリストの育成という観点から専門分野の基礎的・基本的な知識、技術及び技能を身に付けるための教育とともに、社会に生き、社会的責任を担う職業人としての規範意識や倫理観を醸成し、豊かな人間性の滋養等にも配慮した教育を行うことが重要である」とし、改善の具体的事項の1つとして、「自然やもののかかわり、命を守り育てるという職業意識の特長を生かし、職業人として必要な人間性を養うとともに生命・自然・ものを大切に作る心、規範意識、倫理観を育成する」と示されています。

このようなことから、本財団が主催を予定する高校生が描く「明日の農業レポートコンテスト」事業は、全国の農業高校生に、農業に関する諸問題について、主体的に、かつ倫理観をもって解決する方法を思索し、「環境保護と農業生産の調和、持続的かつ安定的な農業と社会の発展」を考える機会を与えることは有意義であると同時に、本財団の定款の目的に定めている通り、「環境保護を学び、(略)健康で活力に満ちた心身ともに豊かな人間を育てることで、時代を担う青少年の育成、

(略)を図り、健康で豊かな社会の構築に寄与することを目的とする。」に合致するものであります。

## (2) 事業の内容

全国の農業高校または農業系教科・科目を学ぶ高校生を対象に「明日の農業」を考えると題したレポートを募集し、それを評価、優秀なレポートを制作した高校生または学校を表彰することで、農業を通して、環境保護と社会発展の調和、「生命・自然・もの」を大切する心を醸成するとともに青少年の健全な育成を促進致します。本事業の内容は、事業報告などにより明記し、応募者の応募条件はなく、応募の機会是一般に開かれる予定であります。

農業高校、農業系教科・科目を学ぶ高校生を対象とし、全国の約400校へ「募集要項」を送付することに加え、日本学校農業クラブ連盟(注)の会誌や同クラブ連盟主催の全国大会誌への告知広告を掲出することで募集する予定です。表彰者や候補者から審査料などは徴収せず、金銭的な負担を求めない予定であります。

(注)日本学校農業クラブ連盟とは、東京都に事務局をおく、農業科や総合学科をもつ高等学校に属する生徒の団体で、378校、85,511名のクラブ員(高校生)が所属する。

審査会の流れとしては、まず一次審査で農業高校現役教諭を中心に審査を依頼しノミネート作品を選出した後、最終審査で全国農業高等学校長協会の理事等経験豊かな高校の現役校長または校長経験者で構成した選考委員会で審査を行い表彰者を決定いたします。なお、当該選考委員会については利害関係者を排除する予定です。

なお、結果発表は事業報告への掲載並びに日本学校農業連盟会誌での発表広告の掲出により、広く公表される予定であります。

賞と賞品については以下の通りとなる予定です。

- ① 金賞(セディア財団賞):全作品より4作品以内  
賞品:賞状、記念たて 副賞:オランダ施設園芸農場研修旅行
- ② 銀賞:全作品より5作品以内  
賞品:賞状、記念たて 副賞:図書カード3万円分



- ③ 銅賞:全作品より10～12作品程度  
賞品:賞状、記念たて 副賞:図書カード1万円分
  - ④ 学校奨励賞 2校以内 ※優秀なレポートを多数応募した学校とする。  
賞品:賞状、記念たて
  - ⑤ 参加賞:応募者全員  
賞品:セディア財団より提供する記念品
- ・募集対象:全国の農業高校及び農業系学科・教科を学ぶ高校生  
但し、農業系学科・教科以外の学科・教科を学ぶ高校生からの応募も  
妨げない。
  - ・募集内容:テーマ「高校生が描く明日の農業コンテスト」  
原稿用紙10枚以内(3,000字～4,000字程度)。  
パソコン、ワープロからの印刷可。  
1名1点、日本語で執筆された自作の未発表作品に限る。
  - ・募集期間:平成30年4月～平成30年6月
  - ・審査期間:平成30年7月中旬
  - ・入賞発表:平成30年7月下旬
  - ・表彰時期:平成30年8月～9月

※想定する応募数は、100点以内と考える。

平成30年度は以上のような事業を行い、この財団法人の目的達成を目指します。